

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
4月	朝のリレー ◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1	1 詩を通読する。 ・詩に登場する国や街がどんなところか、そこでどんな人が何をしているのか、情景を想像しながら音読する。 2 想像したことや、好きな言葉や表現を交流する。 ・詩を読んで想像した情景や好きな言葉や表現などをグループで交流し、どのように音読すれば、詩のよさが伝わるかを相談する。 3 詩の特徴を生かして音読する。 ・詩のよさが伝わるように工夫して音読する。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。 →速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫しながら音読している。 【態】音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
言葉に出会うために				
4月	言葉に出会うために 野原はうたう ◎音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。(知・技) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1	「言葉に出会うために」を読み、目次や「学習の見通しをもと」を使って、中学校での国語学習の見通しをもつ。 1 国語で何を学ぶのかを考える。 ・「言葉に出会うために」を読み、国語を学ぶ意味や言葉の価値を考える。 2「野原はうたう」の二つの詩を通読する。 ・詩の作者である生き物になったつもりで、情景や心情を想像しながら音読する。 ・詩に表現された語句の意味に注意する。 ◇気に入ったところに印をつけたり、線を引いたりしながら読む。 ◇詩人・工藤直子さんの「野原はうたう」に込めた思いを考える。 3 速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを変えて音読する。 ◇声の強弱や間の取り方などを変えることで、印象が変わることに気づく。 4 学習を振り返る。 ・どのように音読したかを確認する。 ・詩を音読するとき、どんな工夫をするとよいか、考える。	【知・技】音声の働きや仕組みについて、理解を深めている。 →速さ、声の強弱、間の取り方、言葉の調子、声の高さを工夫している。 →情景や心情を表す表現に応じて、音読のしかたを工夫している。 【態】音声の働きや仕組みについて進んで理解を深め、小学校での学習を生かして音読しようとしている。
5月	はじまりの風 ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。 ◎場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★物語を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表)	1-2	1 「目標」や「学習の見通しをもと」でねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 2 作品の全体像を捉える。 ・登場人物は誰かを確かめる。 ・物語全体を幾つかの場面に分ける。 ・場面ごとに、登場人物の心情がわかる表現を挙げる。 ◇小学校で学習してきた物語の読み方を思い出させながら進める。 3 心情の変化を整理する。 ・場面の展開に沿ってレンの心情の変化を捉え、図などを使って整理する。 4 整理した内容を基に話し合う。 ・整理した図をグループで見せ合いながら、自分が着目した表現や、そこから読み取れるレンの心情の変化について話し合う。 5 学習を振り返る。 ・場面ごとの心情の変化を図を用いて整理することで、どんなことがわかったか、自分の言葉でまとめる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。 →図などを使って、心情の変化を整理している。 【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。 →場面ごとに会話や描写を整理して、登場人物の心情や関係の変化を捉えている。 【態】場面の展開や心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見通しをもって着目した表現や心情の変化について話し合おうとしている。
5月	漢字1 漢字の組み立てと部首 漢字に親しもう1 ◎小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている	1	1 導入部分を読み、漢字の組み立てに興味をもつ。 ・漢字は、左右・上下・外側と内側などの二つの部分を組み立てたものが多いことを理解する。 2 偏旁冠脚について理解する。	【知・技】小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでい

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。		3 部首の種類について理解する。 4 P40「漢字に親しもう1」の問題に取り組む。 →P258「小学校六年生で学習した漢字一覧」 →P302資「一年生で学習した漢字」 →P317資「一年生で学習した音訓」 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べる。 ◇P255「[練習]小学校六年生で学習した漢字」に取り組む。	る。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。 →漢字の組み立てと部首について理解している。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読みだり書いたりしようとしている。
2 新しい視点で				
6月	ダイコンは大きな根? ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技) ◎文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができます。(思・判・表) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表)	1	1 「目標」や「学習の見通しをもと」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 2 文章の中心的な部分を捉える。 •「問い合わせ」を投げかけている段落と、それに対する「答え」を示している段落を見つける。 •二つの「問い合わせ」とその「答え」を、それぞれ短い言葉でまとめる。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。 →本文中で比較がどのように使われているかを理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。 →「問い合わせ」と「答え」から中心的な部分を捉え、筆者の主張を理解している。 【態】文章の中心的な部分と付加的な部分について積極的に捉え、学習課題に沿って筆者の工夫を伝え合おうとしている。
6月	ちょっと立ち止まって ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使うことができる。(知・技) ◎文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができます。(思・判・表) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表)	1 2 3 4	3 段落の役割について考える。 •十の段落が、それぞれ文章全体の中でどんな役割を果たしているかを考える。 •「これに対して」などに注目し、その前後の文や段落が、どのようにつながっているかを考える。 •わかりやすく説明するための筆者の工夫について、考えたことを発表する。 ◇題名の付け方、説明のしかた(問い合わせと答え、比較、図など)に着目する。 4 学習を振り返る。 •文章全体の中で、段落が果たす役割には、どのようなものがあつたか挙げる。 1 本文を通読する。 •注意する語句・新出漢字を調べる。 2 文章の構成に着目し、要旨を捉える。 •全体を、大きく三つのまとまりに分け、本論を事例ごとのまとまりに分ける。 •筆者の考え方(結論)を基に、文章の要旨をまとめる。 3 文章の構成に着目し、その効果を考える。 •本論の図が何を述べるために示されているかまとめる。 •結論を導くために、序論と本論がどのような役割を果たしているかを考える。 •「見る」ことに関する言葉を抜き出し、注目の度合いや、見る時間の長さの順に整理する。 →P51言葉 4 考えたことを伝え合う。 •生活中で、ものの見方や考え方方が広がったと思われる体験や事例を発表する。 ◇最初にもった疑問は解決したか、また学習の前には気づかなかつた、新たな発見や疑問があれば、報告する。 5 学習を振り返る。 •筆者は、なぜ私たちに「ちょっと立ち止まって、他の見方を試して」みることをすすめているのだろう。	【知・技】比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それらを使っている。 →筆者の主張と事例との関係を理解している。 【思・判・表】「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。 →序論・本論・結論の段落のまとまりに着目し、要旨を捉えている。 【態】進んで要旨を把握し、学習の見通しをもって考えたことを伝え合おうとしている。

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
			→「ちょっと立ち止まって」という語句を使って、自分の言葉でまとめる。	
<b>3 言葉に立ち止まる</b>				
7月	空の詩 三編 [書く]詩の創作教室 ◎事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにことができる。(知・技) ◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技) ◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表) ◎根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができます。(思・判・表) <b>▼</b> 言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) <b>★</b> 詩や解説文を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表) <b>★</b> 詩を創作し、感じたことや考えたことを書く。(思・判・表)	1-「目標」や「学習の見通しをもと」で本教材のねらいを確認し、 2 学習の見通しをもつ。 1 三つの詩を音読する。 •新出漢字を調べる。 2 詩を読んで、感じたことを交流する。 •わからないと思った事柄や言葉。 •美しさやおもしろさを感じた事柄や言葉。 3 詩の情景や表現の効果について話し合う。 •それぞれの詩に描かれている情景。 •それぞれの詩で、最も印象に残った表現とその効果。 ◇友達の意見との共通点や相違点を確認させる。 4 詩のよさを発表する。 •三編の中で最も心に響いた詩はどれか。どんなところによさを感じたのか、発表する。 5 三編の詩の表現を参考にして、詩を作る。 •例を参考に題材を考える。 •印象に残った表現や例を参考にして、詩を書く。 •読み合って感想を伝え合う。 6 学習を振り返る。 •詩を読み深めるためには、どんなことに注意して読むといいか、「詩を読み深めるためには」に続くように書く。 •詩を作るとときに、表現で工夫したこととその効果をグループで共有する。	<p><b>【知・技】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</li> </ul> <p>→詩の中の語句の意味を捉えながら、語感を磨き、語彙を豊かにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。</li> </ul> <p>→表現の技法を理解し、表現を工夫して詩を書いている。</p> <p><b>【思・判・表】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。</li> </ul> <p>→詩に描かれている情景を想像し、表現の効果を考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。</li> </ul> <p>→自分の思いが読み手に伝わるように、言葉や表現を工夫して詩を書いている。</p> <p><b>【態】</b>文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって詩を創作しようとしている。</p>	
<b>4 心の動き</b>				
9月	大人になれなかった弟たちに…… ◎読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解することができる。(知・技) ◎場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる(思・判・表) <b>▼</b> 言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) <b>★</b> 物語を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表)	1-「目標」や「学習の見通しをもと」で本教材のねらいを確認し、 2 学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 •注意する語句・新出漢字を調べる。 2 描写に着目して登場人物の心情を捉える。 •「母」が食べ物をあまり食べなかつたり、「僕」が「ヒロユキ」のミルクを盗み飲みしてしまつたりした理由を確かめる。 •提示された部分から「僕」や「母」の気持ちを考える。 ◇提示された部分以外にも、登場人物の心情がわかる描写に線を引き、心情を考える。 3 題名のもつ意味について考える。 •作品の時代背景を踏まえて、題名のもつ意味について話し合う。 4 表記に込められた、作者の意図を考える。 •「ヒロユキ」や「ヒロシマ」「ナガサキ」を片仮名表記にした、作者の意図を考える。 5 思いを伝える朗読会をする。 •読み取ったことを踏まえ、場面の様子や登場人物の心情がより伝わるように読む。 ◇出典の絵本も確認する。 6 学習を振り返る。 •描写に着目することで、どんなことが読み取れたか、自分の言葉でまとめる。 •関連する本を読んで、さらに考えが深まったことを挙げる。	<p><b>【知・技】</b>読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解している。</p> <p>→戦時中という時代背景や、その中で暮らす人々の生活苦を理解している。</p> <p><b>【思・判・表】</b>「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。</p> <p>→描写に着目して、登場人物の行動や心情の変化を捉えている。</p> <p><b>【態】</b>登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に積極的に捉え、学習の見通しをもって朗読しようとしている。</p>	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
9月	星の花が降るころに ◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技) ◎場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈することができる。(思・判・表) <b>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</b> <b>★小説を読み、考えしたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表)</b>	1-「目標」や「学習の見通しをもとう」で本教材のねらいを確認し、 2 学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 •注意する語句・新出漢字を調べる。 2「私」を中心に作品の内容を押さえる。 •時や場所、登場人物の組み合わせなどに注意して、作品をいくつかの場面に分ける。 •場面の展開に沿って、「私」の気持ちの変化を表などにまとめる。 3 場面や描写を結び付けて読む。) •提示された場面や描写を比べることで、どんなことが読み取れるか、話し合う。 •「雪が降るよう」のように、様子や動きを何かにたとえた表現を探し、どんな情景や気持ちを表しているか考える。 4 印象に残った場面や描写を語り合う。 •印象に残った箇所やその理由をグループで述べ合う。 5 学習を振り返る。 •複数の場面や描写を結び付けて読むと、どんなことが見えてきたか、自分の言葉でまとめる。 •読み取ったことを踏まえ、この後、作品がどう続いていくかを考えて書く。	<b>【知・技】</b> 比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかたについて理解を深め、それを使ってている。 →場面や描写の結びつきを、図などを用いて整理・比較している。 <b>【思・判・表】</b> 「読むこと」において、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈している。 →場面ごとの状況や、場面と人物などの描写を結び付けて、内容を読み深めている。 <b>【態】</b> 進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈し、学習の見通しをもって考えを伝え合おうとしている。	
10月	言葉2 方言と共通語 ◎共通語と方言の果たす役割について理解することができる。(知・技) <b>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</b>	1 導入の課題に取り組み、地域による言葉の違いについて 2 関心をもつ。 2 教材文を読み、方言と共通語の違いを理解する。 •語句・表現・文法・発音の違い。 •共通語の必要性。 3 P122「生活に生かす」を読み、方言と共通語のそれぞれの役割や特徴について理解する。	<b>【知・技】</b> 共通語と方言の果たす役割について理解している。 →共通語と方言の役割や特徴について理解している。 <b>【態】</b> 今までの学習を生かして、積極的に共通語と方言の果たす役割について理解しようとしている。	
10月	漢字2 漢字の音訓 ◎小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技) <b>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</b>	1 導入部分を読み、漢字の読みには「音」と「訓」があることを理解する。 2「音」と「訓」の歴史や性質を理解する。 •複数の読みがある漢字や熟語について考える。 3 漢和辞典を利用して、練習問題に取り組む。 △言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べる。	<b>【知・技】</b> 小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。 →漢字の音・訓について理解し、熟語を正しく読みたり、同じ熟語の音・訓の読み方を使って短い文を作ったりしている。 <b>【態】</b> 学習課題に沿って、積極的に漢字を読みたり書いたりしようとしている。	

5 筋道を立てて

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
10月	<p>「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ</p> <p>◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技)</p> <p>◎文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができる。(思・判・表)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★記録の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表)</p>	1 2 3 4	<p>1 「目標」や「学習の見通しをもと」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 本文を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。</p> <p>2 文章の構成と内容を捉える。 ・提示された内容がどのような事実を基に仮設を立てたかを簡潔にまとめる。 ・筆者がどのような事実を基に、どのような仮説を立てたかを確かめる。 ・「仮説・仮定・予想」「検証・照明・裏づけ」の言葉の意味や使い方の違いを考える。</p> <p>3 文章の構成や展開の効果を、根拠を明確にして考える。 ・仮説の検証1・2について、観点を立てて、表にまとめる。 ・なぜ仮説が証明されたといえるか、表を基に話し合う。 ◇仮説1の検証結果から、さらに疑問が生まれ仮説2が生まれ、という展開になっていることに気づく。筆者が「事実」をどう解釈して意見へと展開しているのか、形式段落の冒頭や文末表現に着目し、読み取る。</p> <p>4 結論に説得力をもたせるために、どのような工夫をしているか、本文の記述や図表などを根拠として、自分の考えを文章にまとめる。</p> <p>5 学習を振り返る。 ・筆者の論の展開の特徴を考える。 ・説得力のある文章を書くために使ってみたい工夫を挙げる。</p>	<p>【知・技】原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 →筆者がどのような事実を基にどのような仮説を立てたかについて、理解している。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。</p> <p>→筆者の意見と、それを支える根拠との関係を考えている。</p> <p>【態】文章の構成や展開について粘り強く考え、学習の見通しをもって考えたことを文章にまとめようとしている。</p>
10月	<p>漢字に親しもう3</p> <p>◎小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使ふことができる。(知・技)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	1	<p>1 新出漢字を確認する。</p> <p>2 練習問題に取り組む。 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べる。</p>	<p>【知・技】小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。</p> <p>→小学校で学習した漢字を使って文章を作り、中学校で学習する漢字の読み方について理解している。</p> <p>【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとしている。</p>
6 いにしえの心にふれる				
11月	<p>音読を楽しもう いろは歌</p> <p>古典の世界</p> <p>◎音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。(知・技)</p> <p>◎古典にはさまざまな種類の作品があることを知ることができる。(知・技)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p>	1	<p>1 P154「いろは歌」を音読する。 ・リズムを味わいながら繰り返し音読する。 ・三段目の現代語訳と関連付けながら読む。</p> <p>2 P156「古典の世界」を読み、3年間の古典学習について見通しをもつ。 ・和歌や物語、隨筆など、3年間でさまざまな古典作品にふれることを知る。</p>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。</li> <li>→言葉の調子や間の取り方などを意識して音読している。</li> <li>・古典にはさまざまな種類の作品があることを知っている。</li> <li>→小学校から親しんできた古典の作品を思い起こし、古典にはさまざまな種類の作品があることを理解している。</li> </ul> <p>【態】古典にはさまざまな種類の作品があることを積極的に知り、今までの学習を生かして古文を音読しようとしている。</p>
11月	<p>蓬萊の玉の枝</p> <p>——「竹取物語」から</p> <p>◎音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有</p>	1	<p>「目標」や「学習の見通しをもと」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 作品を通読する。 ・古典の文章を、リズムを味わいながら繰り返し音読する。</p>	<p>【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。</p>

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。(知・技)</p> <p>◎場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。(思・判・表)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★物語などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表)</p>	<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新出漢字を調べる。</li> <li>古典の文章について、現代の文章との違いを確かめる。</li> <li>仮名遣いの違いを確かめる。</li> <li>文末の言葉の違いを確かめる。</li> <li>現代とは違う意味で使われている言葉や、現代では使われなくなった言葉の意味を確かめる。</li> </ul> <p>3 描かれている古典の世界を想像する。(学習③)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「蓬萊の玉の枝」に登場する人々の思いや行動を書き出し、現代の自分たちの考え方や行動と通じるところを探す。</li> </ul> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>現代の文章と古典とを比べ、どんな違いに気がついたか挙げる。</li> </ul>	<p>→音読に必要な文語のきまり、古文特有のリズムについて理解し、その世界に親しんでいる。</p> <p>【思・判・表】「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。</p> <p>→「蓬萊の玉の枝」に登場する人々の関係や思いに着目して読み、現代の自分たちと比べ、古典の世界と現代の人々に共通する部分を考えている。</p> <p>【態】進んで古文を音読し、学習課題に沿って描かれている古典の世界を想像しようとしている。</p>	
11月	<p>今に生きる言葉</p> <p>[書く] 故事成語を使って体験文を書こう</p> <p>◎音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。(知・技)</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表)</p> <p>◎書く内容の中心が明確になるように段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(思・判・表)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★漢文を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表)</p>	<p>1 「目標」や「学習の見通しをもと」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 漢文を音読し、独特のリズムや言い回しに親しむ。</p> <p>2 本文を読み、故事成語について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「矛盾」がどんな故事に由来し、どんな意味で使われるようになったかを説明する。(学習②-1)</li> <li>「推敲」「蛇足」「四面楚歌」の言葉の意味や、基になった故話を調べる。(学習②-2)</li> </ul> <p>2 3 故事成語を使って、体験文を書く。(学習③)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>手順に沿い、「矛盾」と自分の体験を結び付けた短い文章を書く。</li> <li>◇体験文を友達と読み合い、感想や意見を述べ合う活動も積極的に取り入れたい。</li> </ul> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音読の中で気づいた、漢文独特の言い回しを挙げる。</li> </ul>	<p>【知・技】音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。</p> <p>→音読に必要な文語のきまり、漢文特有のリズムや言い回しなどについて理解している。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。(C1)オ</li> </ul> <p>→「矛盾」や、「推敲」「蛇足」「四面楚歌」の基になった故事を調べ、どんな意味で使われるようになったか説明している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。</li> </ul> <p>→「矛盾」と自分の体験と重ねて、書く内容の中心が明確になるように文章の展開や構成を考えている。</p> <p>【態】積極的に漢文を音読し、今までの学習を生かして故事成語を使った文章を書こうとしている。</p>	
12月	<p>「不便」の価値を見つめ直す</p> <p>[書く]筆者の主張に対する自分の意見を書こう</p> <p>◎原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができる。(知・技)</p> <p>◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(思・判・表)</p> <p>◎目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができる。</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表)</p> <p>◎根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思・判・表)</p> <p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切</p>	<p>1 「目標」や「学習の見通しをもと」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。</p> <p>1 本文を通読し、内容を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>注意する語句・進出漢字を調べる。</li> </ul> <p>2 2 本文を要約し、筆者の主張について検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>筆者の主張をつかむために、本文を200字程度で要約する。</li> <li>◇キーワードやキーセンテンスを抜き出せるとよい。</li> </ul> <p>3 ◇まとめの言葉(「つまり」「以上のことから」など)を手がかりにして探す方法を示してもよい。</p> <p>◇最初から200字程度にするのではなく、400字から200字に絞り込ませたり、マーカーで意見と事例に分けさせたりするとよい。</p> <p>4 要約と事例を基に、提示された点について検討する。</p> <p>3 筆者の主張に対する自分の意見を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の条件に沿って自分の意見を書く。</li> <li>◇タブレットなどを使って文章を書かせててもよい。</li> </ul> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>どのような点に着目して、要約に必要な情報を選んだか挙げる。</li> </ul>	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>原因と結果、意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。</li> </ul> <p>→自分の意見を述べるときには、根拠が必要であることを理解している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている。</li> </ul> <p>→情報の整理のしかたを理解し、本文を要約したり引用したりしながら、自分の考えをまとめている。</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。</li> </ul> <p>→文章を読んで理解したことに基づいて、筆者の主張に対する自分の考えをまとめている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈している。</li> </ul>	

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	にして、思いや考えを伝えあおうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表)			る。 →目的に沿って必要な情報を結び付け、要約している。 ・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。 →立場を明確にして、自分の考えの根拠となる事例を挙げながら、意見を書いている。 【態】必要な情報に着目して、粘り強く要約し、試行錯誤しながら自分の考えを文章にまとめようとしている。
12月	漢字に親しもう4 ◎小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1	1 新出漢字を確認する。 2 練習問題に取り組む。 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べる。	【知・技】小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。 →小学校で学習した漢字を使って文章を作り、中学校で学習する漢字の読み方について理解している。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読みたり書いたりしようとしている。
8 自分を見つめる				
1月	少年日の思い出 [書く]別の人物の視点から文章を書き換えるよ ④事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができます。(知・技) ◎文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる(思・判・表) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表) ◎書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(思・判・表) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度) ★小説を読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする。(思・判・表) ★詩を創作したり隨筆を書いたりするなど、感じたことや考えたことを書く。(思・判・表)	1 2 3 4 5 6	「目標」や「学習の見通しをもと」で本教材のねらいを確認し、学習の見通しをもつ。 1 作品を通読する。 ・注意する語句・新出漢字を調べる。 ◇文章の中での語句の意味に注意させる。 2 作品の展開を捉える。 ・語り手の転換に注意しながら、全体が前半と後半の二つに分かれていることを確認する。 ・時間、場所、出来事に着目しながら、後半をいくつかの場面に分け、概要を短くまとめる。 3 「僕」の心情の変化をまとめること。 4 「僕」から見た「エーミール」の人柄が描写されている部分を探して抜き出す。 ・クジャクヤママユのうわさを聞いてから、盗み、壊すまでの「僕」の心情の変化をまとめること。 ・最後に収集したちようを潰す「僕」の行動を基に心情を捉える。 ◇作品に使われている「熱情」という言葉について考え、読み取りの手立てとするといい。 4 別の人物の視点から文章を書き換える。 ・人物を決め、書き換える場面を選び、創作する。 ◇「母」「エーミール」以外にも、「作品前半の語り手」など、幾つかの視点を与えるといい。 ・書き上げた文章を読み合い、感想や意見、作品や登場人物について発表し合う。 5 学習を振り返る。 ・「僕」の考え方や感じ方について、共感することや疑問に思うところを話し合う。 ・別の登場人物の視点も踏まえて読むことで、自分の考え方や作品の印象はどのように変わったか、挙げる。	【知・技】事象や行為、心情を表す語句の量を増すとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 →場面描写の言葉や登場人物の心情を表す言葉に着目している。 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えている。 →時間・場所・出来事・語り手に着目して作品の構成や展開を捉えたり、具体的な表現を挙げてその効果について自分の考えをまとめたりしている。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。 →登場人物の考え方や感じ方について、自分の考えをもっている。 ・「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。 →別の人物を選び、その人物の心情や行動が明確になるように構成や展開を工夫して書いている。 【態】文章の構成や展開、表現の効果について積極的に考え、学習の見通しをもって別の人物の視点から文章を書き換えるようしている。
1月	漢字に親しもう5 ◎小学校学習指導要領第2章第1節国語	1	1 新出漢字を確認する。 2 練習問題に取り組む。	【知・技】小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)		◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べる。	字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。 →小学校で学習した漢字を使って文章を作り、中学校で学習する漢字の読み方について理解している。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読みたり書いたりしようとしている。
2月	言葉3 さまざまな表現技法 ◎比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使うことができる。(知・技) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1-1 導入の例を読み、表現による印象の違いを挙げる。 2 P224「言葉の並べ方の工夫」を読み、表現技法によるリズムの違いや効果について考える。 •例文を基にそれぞれの技法の特徴を理解する。 3 P225「比喩」を読み、比喩の種類による印象の違いを考える。 •例文を基に、比喩の特徴を理解する。 ◇P226「生活に生かす」を読み、日常生活の中でも、比喩を使うことで物事を効果的に伝えることができる伝えよ。		【知・技】比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し使っている。 →比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解している。 【態】積極的に比喩、反復、倒置、体言止めなどの表現の技法を理解し、学習課題に沿ってそれらを使おうとしている。
2月	漢字3 漢字の成り立ち 漢字に親しもう6 ◎小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読むことができる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技) ▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)	1 1 漢字の成り立ちについて理解する。 •「象形」「指示」「会意」「形声」を用例とともに確認する。 •国字について知る。 •漢字の分類「六書」について知る。 2 漢和辞典を利用して練習問題を解き、漢字の成り立ちを調べ、分類する。 3 P229「漢字に親しもう6」の問題に取り組む。 ◇言葉の意味がわからないときは、国語辞典等で調べる。		【知・技】小学校学習指導要領第2章第1節国語の学年別漢字配当表に示されている漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から400字程度までの漢字を読んでいる。また、学年別漢字配当表の漢字のうち900字程度の漢字を書き、文や文章の中で使っている。 →漢字の成り立ちについて理解し、漢和辞典を使って調べている。 【態】学習課題に沿って、積極的に漢字を読みたり書いたりしようとしている。
振り返り				
3月	学習を振り返ろう ◎比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知・技) ◎共通語と方言の果たす役割について理解することができる。(知・技) ◎文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握することができる。(思・判・表) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。(思・判・表) ◎相手の反応を踏まながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。(思・判・表) ◎根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができます。(思・判・表)	1 1 P260の説明文を読み、学習課題に取り組む。 •網走地方気象台の観測記録から、どんな事実が明らかになったか、二つに分けて書く。 •「流氷の減少は、人類に対する自然からの警告かもしれない。」について。どのような警告かを考えて書く。 ◇「つなぐ」を読み、事実と意見を読み分けること、接続語や文末表現に着目しながら読み進めることの大切さを確認する。 2 P261の方言に関するスピーチを聞き、学習課題に取り組む。 •「飲まさる」についてまとめる。 •「このように」からはじまる段落の言い換え表現を考える。		【知・技】 •比較や分類、関係づけなどの情報の整理のしかた、引用のしかたや出典の示し方について理解を深め、それらを使っている →曲名と歌の一節を引用する方法を理解している。 •共通語と方言の果たす役割について理解している。 →課題にある方言の例を読み、共通語と方言の果たす役割について理解している。 【思・判・表】 •「読むこと」において、文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握している。 →温暖化による流氷の減少が、環境に与える影響について、網走気象台の観測記録からわかった事実を二つに分けて書いている。 •「読むこと」において、文章を読んで理解した

月	教材名・時数・指導目標・言語活動	時	学習活動	評価規準
	<p>▼言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。(主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>★説明の文章を読み、理解したことや考えたことを報告したり文章にまとめたりする。(思・判・表)</p> <p>★紹介や報告など伝えたいことを話したり、それらを聞いて質問したり意見などを述べたりする。(思・判・表)</p> <p>★本や資料から文章や図表などを引用して説明したり記録したりするなど、事実やそれを基に考えたことを書く。(思・判・表)</p>			<p>ことに基づいて、自分の考えを確かなものにしている。</p> <p>→「……という警告。」で終わる形になるように、筆者の示した情報と自分の考えを結び付けて書いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「話すこと・聞くこと」において、相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫している。</li> <li>→話すときは、聞き手の反応を踏まえて、伝えたいことが伝わるように表現を工夫している。</li> <li>・「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。</li> </ul> <p>【態】今までの学習を生かして、それぞれの学習課題に粘り強く取り組もうとしている。</p>